

第二協立病院



着任のご挨拶

皆様、こんにちは。 透析センター長の東です。

このたび、透析センターの拡充計画に伴い、副院長としてその実現へ向け微力を捧げることとなりました。何卒、皆様からのお力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和2年は新型コロナウイルスと人類との戦いの年の様相を呈し、当院透析センターでも新型コロナウイルスを含む感染症対策を強化しております。

入院設備を持った当院透析センターの外来部門のさらなる拡充、感染対策のさらなる充実を行い、地域の皆様に安心してご利用いただける透析センターを目指したいと思っております。

副院長・透析センター長 東 敬子

2003年より精神科医として働き始め、コンサルテーションリエゾン（身体疾患をもつ患者の抑うつやせん妄などのケア）やサイコオンコロジー（がん患者の心のケア）を専門として臨床や研究に携わってまいりました。

2016年より、痛みなど身体の苦痛を含むトータルな緩和ケアを目指すべく大学病院の緩和ケアチームやホスピスにて緩和ケア医としての研鑽を重ねております。私でお役に立てそうなことがありましたら皆様どうぞお気軽にお声かけください！

緩和ケア科 医師 羽多野 裕

3月1日より、リハビリテーション科管理科長として着任いたしました野谷美樹子と申します。

医療法人協和会の入職は平成元年で、入職以降約30年間、吹田の協和会病院で勤務しておりました。そのため、第二協立病院のことだけでなく川西市についてもほとんど知らない状況でのスタートとなりました。

高齢社会においてリハビリテーションは今後もますます重要になってくる分野です。第二協立病院はこれまで地域のリハ病院として重要な役割を果たしてきましたが、今後も「リハビリテーションは第二協立病院」といっていただけるように、提供するリハビリテーションの量も質もこれまで以上に高めていきたいと思っております。そのためには県下でも有数の人員数を誇っているスタッフが、それぞれベテランも中堅も若い人も、子育てする人も、みんなが力を発揮できるようなチームにしていきたいと思っております。

これから第二協立病院の職員として地域の皆様のお役に立てるように頑張っていきますので、皆様のご指導、ご鞭撻よろしくお願い致します。

理学療法科科长 野谷 美樹子

4月1日より薬剤科科长として赴任しました。当法人では5病院目となります。第二協立病院は新しい病院で、スタッフも若手を中心です。現在当院の薬剤師は入院患者様への薬剤提供や服薬指導を行っておりますが、今後は更に病棟での業務を広げ、また他職種との協働で地域連携なども推進し、今以上に「顔が見える薬剤師」の育成を図って行きたいと考えています。みんな勉強熱心で、認定資格など専門知識を深めた薬剤師も複数おります。薬の事は何でも相談に乗りますので、薬剤師の姿を見かけたときは気軽に声をお掛けください。

薬剤科科长 浅井 浩之

【編集後記】

新型コロナウイルスの感染症拡大の影響を受け、大変な日々をお過ごしのことと思います。少しでも明るい話題を提供出来たらと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

地域連携推進委員会 高橋 亮太

Smile通信 ~みんなが主役~



第15号

発行日 2020年 7月

病院長 福田 能啓のご挨拶

新入職おめでとうございます。

新入職の皆さんは4月の第一土曜日に、スタッフと一緒に「花見」に行くのが慣例になっています。万博公園のこともあれば、三田のフルーツパークのこともあります。桜の花を眺めながら、先輩の話に耳を傾け、今後の仕事に関しての夢や豊を語りあう機会にしています。今年は急遽取りやめになりました。

昨年末に中国・武漢から日本、そして全世界へと感染拡大していった新型コロナウイルスによる「不要不急」外出の自粛に従うための対応でした。新型コロナウイルスが猛威を振るう中、手洗い励行、常時マスク着用、フェースシールド装着等のため、まだお互いの顔を覚えられないままですが、「アイコンタクト」とマスクの下からの「元気な声」があればこそですが、皆さんの個性は認識できています。秋までに終息すれば、「栗拾いバーベキュー」を計画したいと考えています。

1日に1人の感染者が2人に感染させると仮定した場合、30日後にはどうなるでしょうか？2日目は2×2で4人、3日目は4×2で8人、4日目は8×2で16人に増加します。n日後には2^n人になります。

2³⁰=1,073,741,824人です。感染を防ぐために、感染しない、感染させないことが重要です。ソーシャルディスタンス厳守（接近しない）、集まらない、狭い場所や風通しの悪い場所に長居をしない、常に風通しを良くするなどの徹底をお願いします。

看護部長 細谷 和子のご挨拶

令和2年が始まると同時にCOVID-19により、法人・院内ICTがフル活動する事態となっております。緊急事態宣言がとられ、今からは感染対策と経済活動のバランスを取りながらの日常生活を取り戻すことになりました。私たち医療従事者は、今からが本番です。コロナ対策の疲れと、気持ち的に開放感が出てきた社会環境下において、面会制限も徐々に解除され、対策の徹底が困難な状況となる事が予測されます。その様な中でいかに院内感染対策を徹底させ防御することが出来るかがとても重要になってきます。院内にはウイルスを持ち込まない。

第二協立 感染対策委員会から

病院敷地内 ①マスク着用

②手指消毒 規制続行中！！



新入職者の皆様へ、社会人になって2ヶ月が経過し理想と現実のギャップに、体と心が悲鳴を上げていませんか？かかえ込まず同期・先輩・上司に、さらに臨床心理士の方にも是非相談してください。私たちスタッフ一同は、皆様の成長を心より願っております。（成長する速度は個人差がございます）本当の笑顔が戻る日まで、お互いに声をかけあいましょう。

事務長 小田 政司のご挨拶

毎年4月は、新入職の皆さんが仲間に加わり新たな風が吹くのですが、今年は過去にない対応を迫られる事になりました。新型コロナウイルスの影響により兵庫県は特定警戒都道府県となり日常が一変しました。患者様やご家族・職員も不安な日々をすごしておられると思います。第二協立病院では新型コロナウイルスに関する感染防止対策に細心の注意を払い、当法人・当病院に求められる役割を果たして、地域医療に貢献したいと考えております。今年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2020年度 46名 入職しました



4月から第二協立病院に入職致しました、看護師15名です。学生生活を終え看護師として働いていく中で、患者様一人一人と向き合い、思いやりのある看護師になりたいと思います。また、新型コロナウイルスが流行しているため医療従事者としての自覚を持ち感染対策、自己管理に努め1日も早く信頼される看護師になれるよう、一生懸命頑張ります。



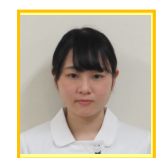
今年は新型コロナウイルスの影響により、様々な事が制限される日々が続いております。こうした状況だからこそ、リハビリの時間が患者様にとって楽しいと思ってもらえると共に、退院後の生活がより充実したものになるようにリハビリ専門職として関わっていきたくと思います。患者様のご希望に応えることが出来るように日々の努力を惜みせず、知識・技術を磨いてまいります。



今年度、医療ソーシャルワーカーとして地域医療連携室に入職しました。大学の講義や実習で学んだことを活かしつつ、先輩職員から多くのことを学びたいと思っています。まだまだ未熟者ですが、出来ることを増やしながらか少しでも戦力になれるよう努力し、精一杯頑張ります。



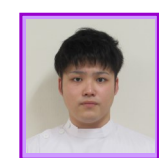
自分がチーム医療の一員であるという自覚を常に持ち、迅速かつ正確に検査結果を患者様の元へ返せるように一つ一つの行動に責任を持って検査を実施し、言葉だけでなく色々な方法で患者様とコミュニケーションを取れるよう頑張ります。



以前、祖父が長い間お世話になり、当院で働くことがずっと夢でした。その夢が叶い、いま新入職員として働いていることをとても嬉しく思っています。私がなりたい将来像は「患者様一人ひとりの嗜好・病状に合った食事を提供・提案できる管理栄養士になること」です。患者様を栄養の面からサポートし、病状回復に繋がれるよう、精一杯頑張ります。



2020年4月から入職しました臨床工学技士です。医療機器の知識を蓄え、正確な技術や情報が提供できる業務を行い、チーム医療に貢献できる臨床工学技士になれるように頑張ります。新型コロナ規制で今は自粛している趣味を活かし、仕事とプライベートを両立した充実感のある社会人生活を送りたいと思います。



よろしくお願ひします

腰痛・膝痛を予防しよう！！

第6弾

今回も「キネステティック」の概念使った、腰痛・膝痛予防におけるコツをお伝えしたいと思います。第6弾のテーマは「歩く」と「跳ぶ」です。最初にキネステティックでの「歩く」とは3つの要素から成り立っています。その3つとは、①重さを別のところに移す ②軽くなった体のパーツを別の所に運ぶ ③そこに重さを戻す です。そして、3つの内1つでも欠くと「跳ぶ」に分類されます。

ここで例を挙げましょう。「ケンケン」をイメージして下さい。片足で跳ねる様に移動しますよね。先述した3つの要素で、①が無く、②③もありません。ですので「跳ぶ」になります。重たいまま、身体のパーツを空間に移すので、非常にエネルギーを使います。次に「歩く」の例を。今から、2足歩行をします。立っている姿勢から、まず右足を前に出します。そこで、まずは左足に体重をかけます(①)。そして、右足が軽くなり、少ない力で前に右足を出します(②)。そして、前に出した右足に重さを戻していきます(③)。2足歩行とはこのプロセスの連続です。このように、「歩く」と少ない力で移動ができ、「歩く」ことで、身体への負担が少なく移動ができます。

今回はここまでしかお伝え出来ませんでしたが、キネステティックが気になる方は「日本動きの学習協会」のホームページを検索してみてください。いろいろと情報が載っていますよ。

理学療法士 小原 健太郎



《病院で働く職種紹介》 第1回目は「言語聴覚士 (ST)」です。

STは、理学療法士や作業療法士と同様にリハビリ専門職の1つです。国家資格になって約20年とまだ新しいですが歴史は古いです。先輩達は昭和30年頃から活躍されていました。現在、全国に約3万人の言語聴覚士がいます。回りハ病院や総合病院、老健施設、訪問リハなど様々な分野で働いています。病院では主に、失語症や構音障害などコミュニケーション障害、注意障害、記憶障害など高次脳機能障害に対して評価や訓練を行います。また近年は嚥下障害に関わる事が急増しています。耳鼻科領域や小児施設で働くSTもいます。言語療法士と言われるなどまだまだ認知度は低いです。今後ともよろしくお願ひ致します。

言語聴覚士 恩田 光平

バスケット サークル紹介 フットサル

バスケットサークルの活動は月に1回(できるようにがんばっています...) 川西体育館で活動しています。時間は19:00~21:00なので業務後に参加して下さい。時間もたくさんいらしゃいます。様々な科の皆さんや法人内の他病院の方々も参加して下さっており、交流の場にもなっています! 初心者の方もたくさんいらしゃいますので、是非お気軽にご参加下さい!!



フットサルサークルは月1回を目安に川西市民体育館(平野駅から徒歩10分程度)で19:00~21:00の時間で活動しています。場所も病院から離れており、時間も業務後になるのですが、リハビリ科を中心に看護部や検査科など様々な部署の方もお越し頂いています。初心者の方もたくさん来られており、いつも和気あいあいとした雰囲気です。是非お気軽にご参加ください。

